

土っ子



土山小学校だより

(令和2年度 3月号)

考 え る 子

助 け 合 う 子

元 氣 な 子

児童数：165名

〔令和3年(2021年)3月12日発行〕

一人ひとりの成長を振り返って！ ～コロナ禍での再発見や再認識～

寒さの厳しい日はあったものの、積雪の頼りもわずかな比較的穏やかな様相の冬が過ぎました。日ごとに風が、そして空気が柔らかさを感じさせる今日この頃です。

“弥生”（やよい）は、弥（いよいよ）生（生命が息吹く）であるとか、いやおい（すべてが）生まれ出す等、新しい生命の息吹が感じられる月だと言われます。子どもたちも、新しいステージ、中学校や次の学年へジャンプするため、その力が一人ひとりの中に確かに満ちてきているように感じられます。

振り返りますと、コロナ禍の中、3月から3ヶ月のもの臨時休校を経て、6月から新学期が始まりました。マスク・手洗い・消毒・フェイスシールド、三密回避、外出の自粛等、新しい学校生活、多くの規制を伴った様式に沿った毎日が始まりました。話し合い、発表、給食、掃除等、これまでの子どもたちの日常が一変しました。

本来子どもたちは、学校に“密”を求めてやってきます。友だちと群れ、その関わりの中で、学び、育っていきます。その楽しさ、大切さを再認識しました。オンラインやICT機器の配置や活用が急ピッチで進みました。効率的な学びが進みましたが、やはり五感を使って相手を理解し、学ぶ大切さも改めて認識させられました。子どもたちも教職員も学校の役割や価値についてしっかり考える機会となりました。一つひとつの活動の意義を考えながら、感染防止対策の下、大切に行事や学びを進めてきました。例年大流行するインフルエンザも、ほぼ完全に予防できました。「ピンチをチャンス」と言われるように、この一年の収穫も少なくなかったと感じています。



身長や体重のように目に見える成長だけでなく、より柔軟で豊かな心の持ち方、学習や運動など、できるようになったことがたくさんあることに気づくのではないのでしょうか。“できた”“わかった”“心地よかった”“うれしかった”などの“満足感”は子どもの力となり、新たなステージへジャンプするエネルギーになります。どうかご家庭において、1年前の姿と比べて、子どもたちの成長した姿に目を向け、ご家族の話題の一つにしていただければ幸いです。

最後になりましたが、1年間、本校の様々な活動に対しまして、ご理解とご協力、お力添えを得ましたこと、とりわけコロナ禍における様々な活動の実施判断時に、勇気を与えていただき、前向きな対応が可能となりましたこと、改めて深くお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

待望の新しい靴箱です

子どもたちが1日に何度となく使う靴箱。これまでのものは、サイズが小さく、靴がそのまま入らなかったり、高さも低く、長靴などは外へはみ出している状態でした。かねて

- から作り替えを願っていましたが、平成元年度・平成2年度卒業生の初老を迎えられた方、さらには有限会社ネヌケン様から、多額のご寄付をいただき、待望の靴箱が完成しました。大きくて木の香りがあふれ、名前は木の札を使い、底には洗えるマットを敷き、ずっと美しく使えるように工夫しました。使用にあたっては、6年生の土っ子委員が、下学年に使い方を説明しました。全校で取り組む「1秒くつそろえ」を土っ子の伝統とすべく、両手でくつをそろえる子どもたちの姿がありました。大切に守っていききたいものです。



</